

マシン油乳剤 ラビサンスプレー	取扱メーカー： 日本曹達 原体メーカー： ———
成分： マシン油……………98.0%	性状： 淡黄色澄明可乳化油状液体 毒性： 普通物 消防法： 第4類・第3石油類(水溶性)・ 危険等級Ⅲ

【品目特性】……………

- マシン油98%の高度精製マシン油乳剤で冬期はもちろん夏期にも使用できる。
- ハダニ類及びカイガラムシ類に優れた効果があり、みかんの油浸、糖、酸に対する悪影響も少ない。
- 展着剤として使用した場合には主剤の防除効果を増大させる。
- 有効成分の特性は参考資料の「有効成分特性一覧表」を参照。

【使用上のポイント】……………

- かんきつでは夏期(6月～7月中旬)と冬期(12月～3月)に使用する。
- りんごでは芽出し直前、直後に使用する。
- 展着剤として使用する場合、混用しようとする薬剤をまず溶かしてから本剤を添加する。

【薬効・薬害等の注意】……………

- 石灰硫黄合剤、ボルドー液などのアルカリ性剤、水和硫黄剤、ジチアノン剤との混用及び近接散布はさける。
- ジメトエート剤はヤノネカイガラムシ第1世代防除期には樹勢により落葉を助長することがあるので、この時期の混用はさける。

- 散布直後の降雨は効果を低下させるおそれがあるので、特に冬期散布においては、降雨が予想される場合は使用をさける。

- 茶に使用する場合は、摘採前4週間は使用しない。

- 茶の5～9月の使用は摘採直後のハダニ幼虫発生期に散布し、クワシロカイガラムシ対象の場合は、株元に十分かかるようにする。

- 果菜類のハダニ類に対しては速効性が不十分であり、また1回散布では効果不十分であるので、なるべく発生初期に7日～10日間隔で散布する。

- いちごに使用する場合、他剤との混用及び近接散布は薬害を生じるおそれがあるのでさける。

- 適用作物、りんご、かんきつ、果菜類の薬害などの注意は「薬害注意事項解説」を参照。

【安全対策上の注意】……………

- 塗装汚染のおそれがあるので、自動車などにかからないように注意。

- 甲殻類に影響を及ぼすおそれがあるので、使用時は注意。

- 共通注意事項6. 街路・公園・堤とう等で使用する場合は注意事項を参照。

【適用と使用法】

●害虫防除剤として使用する場合

作物名	適用害虫名	希釈倍数	10 a 当り 使用液量	使用時期	本剤及びマシン油を含 む農薬の総使用回数	使用方法
かんきつ	カイガラムシ類	100～200倍	200～ 700 ℓ	夏期 (6～7月中旬)	—	散布
		70倍		冬期 (12～3月)		
	ミカンハダニ	100～200倍		春～夏期 (4～7月中旬)		
		70倍		冬期 (12～3月)		
りんご	ハダニ類	40～60倍		芽出し直前、直後		
		100倍		展葉期 (発芽後2週間まで)		
		200倍		展葉期 (発芽後3週間まで)		
なし	カイガラムシ類 ハダニ類 ニセナシサビダニ	50倍		発芽前		
くり						
かき	カイガラムシ類	200倍		展葉期 (発芽後3週間まで)		
小粒核果類 おうとうも ネクタリン		25～50倍		発芽前		
ブルーベリー		30倍				
いちご なす きゅうり すいか		ハダニ類	100～150倍	100～ 300 ℓ	—	
茶	クワシロカイガラムシ ハダニ類	70～100倍	1000 ℓ	10～3月		
	チャトゲコナジラミ		200～ 400 ℓ			
	クワシロカイガラムシ ハダニ類	100～150倍	1000 ℓ	5～9月		
	チャトゲコナジラミ		200～ 400 ℓ			
樹木類	カイガラムシ類	100～200倍	200～ 700 ℓ	夏期		

●展着剤として使用する場合

適用農薬名	適用作物名	散布液10 ℓ 当り使用量	使用方法
チオファネートメチル剤 マンネブ・チオファネートメチル剤	かんきつ	20～25 mℓ	添加
チオファネートメチル剤	りんご、なし、もも		